



日本財団パラリンピックサポートセンター 立教大学ウエルネス研究所
立教大学東京オリンピック・パラリンピックプロジェクト 共催シンポジウム

地域におけるパラスポーツ振興 パラリンピックムーブメントとの連動

2019年10月1日(火) 18:00～20:00 (受付開始17:30)

立教大学 (池袋キャンパス) 太刀川記念館 3階カンファレンスルーム
東京都豊島区西池袋3丁目34-1

本シンポジウムでは、カナダ、ドイツ、日本国内におけるパラスポーツの振興事例を紹介し、それぞれが抱える課題を整理した上で、地域におけるパラスポーツの持続的な発展促進の在り方と、そこでパラリンピックムーブメントがどのように連動しているか、また、共生社会実現のためにパラスポーツがどのように寄与できるかについて議論します。

言語

日本語・英語 (日英同時通訳つき)

参加費

無料

お問い合わせ・お申込み

メールの件名を「10月1日シンポジウム参加申込み」とし(1)お名前(2)フリガナ(3)ご所属・役職を明記して research@parasapo.tokyo 宛にメールにて9月27日(金)までにお申し込みください。返信を以て受付とします。

☆入退場時の移動および情報保障のサポートをご希望の方は、お申込みの際にお申し出ください。

日本財団パラリンピックサポートセンター パラリンピック研究会 担当 中島・池田
Tel.: 03-5545-5991 (平日9:00～17:00)

主催: 公益財団法人 日本財団パラリンピックサポートセンター

共催: 立教大学ウエルネス研究所 立教大学東京オリンピック・パラリンピックプロジェクト

協力: 公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会

プログラム

【基調講演】

18:05～18:25 「カナダにおけるパラスポーツ振興」

トッド・ニコルソン(カナダOwn The Podium会長・パラリンピアン)

【第1部】

18:25～18:45 「ドイツにおける障がい者の地域スポーツ参加と共生社会の形成」

安井 友康(北海道教育大学教授)

18:45～19:00 「長野県の取り組みと課題ーオリンピック、パラリンピック、
スペシャルオリンピックスの三つの世界大会の経験を踏まえてー」

大月 良則(長野県健康福祉部長)

【第2部 総合討論】

19:00～19:55

モデレーター 松尾 哲矢(立教大学教授)

指定討論者 永瀬 充(北海道新聞パラスポーツアドバイザー・パラリンピアン)

全パネリスト

スピーカーは都合により予告なく変更となる場合があります

登壇者プロフィール（登壇順）



トッド・ニコルソン (Todd Nicholson)

カナダOwn The Podium(オウン・ザ・ポディウム)会長。アイススレッジホッケー(現パラアイスホッケー)選手として5回のパラリンピック大会に出場、1994年リレハンメル大会で銅メダル、1998年長野大会で銀メダル、2006年トリノ大会で金メダルを獲得。2010年に現役を引退、2010年～2017年まで国際パラリンピック委員会(IPC)アスリート評議会会長および理事を務める。2018年より現職。オリンピック・パラリンピック双方のカナダチームの競技力向上のために尽力している。



安井 友康 (YASUI Tomoyasu)

北海道教育大学札幌校教授、横浜国立大学大学院教育学研究科修了。ドイツ・ベルリン自由大学客員研究員(1996年)、客員教授(2005年)。日本アダプテッド体育・スポーツ学会会長(2005年～2012年)、アジア障害者体育スポーツ学会(ASAPE)会長(2012年～2014年)、国際アダプテッド身体活動学会(IFAPA)アジア地区代表役員(2009年～)。著書に『障害児者の教育と余暇・スポーツードイツの実践に学ぶインクルージョンと社会形成ー』(共著、明石書店、2012年)他。論文に『ドイツにおける障害者のスポーツー地域スポーツクラブをベースにしたインクルーシブな社会形成へー』(単著、発達障害研究、2018年)他。



大月 良則 (OTSUKI Yoshinori)

長野県健康福祉部長。1984年県に入職、1994年に1年間英国に派遣され地方自治研究を行う。その後、障害福祉課長、長野県障がい者スポーツ協会常務理事、次世代サポート課長、秘書課長、国際担当部長などを務め、2018年9月より現職。2005年2月に長野で開催された2005年スペシャルオリンピックス冬季世界大会では事務局長を務め、大会を成功に導く。大会後は、個人として世界で初めてスペシャルオリンピックスの競技であるフロアホッケーの競技団体、日本フロアホッケー連盟を立ち上げ、現在常務理事。



松尾 哲矢 (MATSUO Tetsuya)

立教大学コミュニティ福祉学部教授。博士(教育学)。専攻はスポーツ社会学。九州大学大学院博士後期課程人間環境学府行動システム専攻単位取得退学。東京都スポーツ振興審議会会長、日本スポーツ協会指導者育成専門委員会委員、国際交流専門委員会委員、日本レクリエーション協会理事、日本体育学会代議員、日本スポーツ社会学会編集委員会委員、日本スポーツ産業学会理事など。著書に『アスリートを育てる<場>の社会学ー民間クラブがスポーツを変えた』(単著、青弓社、2015年)、『スポーツ白書ースポーツによるソーシャルイノベーション』(共著、笹川スポーツ財団、2017年)他。



永瀬 充 (NAGASE Mitsuru)

北海道新聞パラスポーツアドバイザー。高校生のときに慢性炎症性脱髄性多発根神経炎(CIDP)を発病。1998年長野大会から2010年バンクーバー大会まで、パラリンピックに4大会連続でパラアイスホッケーゴールキーパーとして出場。バンクーバー大会で銀メダル獲得。2015年引退。日本パラリンピアンズ協会理事。